

# 第11回 ソーシャルワーク研究所 シンポジウム

## 忘れてはならない地域福祉時代における ミクロ・ソーシャルワークの視座 －「問題認識」の個別化と「問題対処」の個別化－

### ●開催趣旨

当研究所が主宰する「シンポジウム」は1999年に第1回目を開催した。その時の主  
題は「ソーシャルワーク実践とスキル・専門性の獲得と教授法」であった。ソーシャル  
ワーカーとしていかなる「視座」を共有すべきかを問うものであった。あれから18年が  
経過した。ソーシャルワーク実践の確かな「視座」が一段と流動化している実態がうかが  
える。

第1回目のシンポジウムで提起した主題を、ここで再び問いかけてみたい。  
人びとの暮らしのなかの「荒み」「きしみ」が随所に顕在している。その解消が決して  
容易でない事態にあることを想起させる「人口減少時代」「超高齢社会」「少子社会」等  
の表記と併せて、命の尊厳を踏みにじるような／息をのむような「事件」「事故」等を耳  
にすることは、最早、日常化した感も否めない。

しかし、その事態に向き合う過程で、生きることに翻弄されている人びとの実態は一律  
に説明するに難しい事情にあったことが詳らかになる。ところが、我われは、その状況を  
読み解く際に「多くの方々」「皆さん」なる切り口（remind）から語ることが多い。人び  
との「悲しみ」「苦しみ」「もがき」「切なさ」等々を「最大公約数ニマス」のような視点  
から受けとめている限り、当事者の暮らしの真の再生に寄与できることはない。

ソーシャルワーカーは、これまで、このような人びとの「思い」を果たして十分に代弁  
してきたであろうか。命の危機状況を「最大公約数ニマス」のような視点から捉えること  
と与しない、そのような流れへの「対立軸」として機能し、存在することがソシヤルワ  
ーカーであるとする使命感の共有は可能であろうか。「社会福祉の縮小」傾向に拍車がか  
かるなかで、誰もを「埋没」させない働きをソーシャルワーカーとして引き受ける必要は  
ないのか。

ソーシャルワーカーの実践がいかなる領域・分野で取り組まれていようとも、その共通  
点は具体的な生活上の諸困難と直面している「人」そのものに関心を寄せながら、その  
「人」が直面している困難・課題に向き合うことにある。社会福祉の制度と実践を取り巻  
く環境の「普遍化」「大衆化」がいかに進展しても、「グローバル化」「多元化」がいかに  
定着しても、時代がいかに変動し進展しても、何よりも、ソーシャルワーカーとして対峙  
する「一人の人間」の「人格」と「人権」と「尊厳」を重んじること、すなわち「ミクロ」  
の視点、それは、ソーシャルワークに共通する実践基盤であり、ソーシャルワーク専門職  
のアイデンティティの基点に据えられているべきものといえよう。

久しく「個別化の原則」として説かれてきた「一人の人間」の個々別性や多様な状態像  
を受け入れながら、その「人」らしい「暮らし」の営みを支えること、そのような実践の  
展開は、ソーシャルワーク専門職の「感性（実践感覚）」から生まれる。そして、支援を  
必要とする「一人の人間」には、生きる喜びを伝えることになり、同時代にともに生きる  
人びとには明日への「夢と希望」を分かち合う道標を示すことになる。

●主催 ソーシャルワーク研究所

●日時 2016年12月11日（日） 13:00～17:30  
（受付開始 12:15）

●会場 明治学院大学 白金校舎・本館1201教室（東京都港区白金台1-2-37）

●参加費 一般：5,000円、大学院生：4,000円、学生：3,000円（短大生～大学生）

●募集定員 80名（定員になり次第締め切り）

●プログラム（敬称略）

主 題 講 演 13:00～14:30 ※講演後に質疑応答を予定

渡部 律子（日本女子大学）  
「リッチモンドに返れ」（A.マイルズ）と「ケースワークは死んだ」（H.パールマン）  
の言説が実践者と研究者に問いかけたもの

シンポジウム 14:45～17:30 ※質疑応答30分間を含む

総合テーマについて、実践事例を提示しつつ、それぞれの領域から発題します。

- 堀越由紀子（東海大学） …医療福祉の領域から  
 新保 美香（明治学院大学） …公的扶助の領域から  
 小嶋 章吾（国際医療福祉大学） …高齢者福祉の領域から  
 高山由美子（救世軍世光寮） …子ども家庭福祉の領域から

総合司会：北川 清一（明治学院大学、ソーシャルワーク研究所）

●お申し込み方法

1. 下記の「参加申込書」に必要事項をご記入の上、FAXにて送信いただくとともに、  
 参加費をお振り込みください（恐れ入りますが、振込手数料はご負担願います）。  
 なお、ご入金後の参加費は返金いたしかねますのでご了承願います。

※お振り込み先 みずほ銀行 高輪台支店  
 （普）1100462  
 ソーシャルワーク研究所

2. ご入金の確認後、参加証を郵送いたします。参加証は当日ご持参ください。

●お申し込み・お問い合わせ先（お問い合わせはメールでお願いいたします。）

ソーシャルワーク研究所  
 〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37 明治学院大学 北川清一研究室気付  
 Fax：03-5421-5344 E-mail：swkenkyu@mail.meijigakuin.ac.jp  
 URL http://www.meijigakuin.ac.jp/~kitagawa/

第11回ソーシャルワーク研究所シンポジウム 参加申込書	
FAX：03-5421-5344 送信日：2016年 月 日	
ご氏名(フリガナ)	( )
ご職業	(該当者はし点を入れてください) <input type="checkbox"/> 大学院生 <input type="checkbox"/> 学生
参加証送付先（ご所属の場合は所属名を明記してください） 〒	
電話：	E-mail：
参加費振込予定日	2016年 月 日
通 信 欄	

※参加申込書の個人情報、ご入金の確認、参加証の発送、次回以降の開催ご案内に使用いたします。